

## 「南予活性化若手経営塾」

—平成 19 年度より開始、現在 5 期目継続中！—

宇和島信用金庫 業務推進部 課長 しのざき まさふみ 篠崎 正史

### I. 当金庫の概要

当金庫は、大正 11 年 5 月に産業組合法による「有限責任宇和島信用購買組合」として設立され、今年で創立 90 周年を迎えます。四国南西部に位置する愛媛県宇和島市を中心に現在 10 店舗で営業を行っています。



当金庫は昨年シンボルマークを一新、地域の方々に愛され、また末永く信頼される存在になりたいとの願いを込め、優しさと温もりを感じさせるシンボルが誕生しました。



宇和島信用金庫

新企業理念「愛郷心と人生美の創生」のもと、徹底した地域密着型の金融機関として、地域に暮らす人々との絆や縁を大切にしながら、地域経済の活性と豊かな生活文化の実現へ向けて努めております。



(篠崎正史さん)

### II. 事業開始までの経緯

当金庫は、愛媛県の南予地域を営業エリアとしており、産業は主に水産養殖業（真珠・魚類）や農業（柑橘栽培）などの第一次産業が盛んな地域であります。その産業が長い間当地域の経済を牽引してきましたが、近年、長引く不況の影響で売上高も大幅に減少しており、南予地域の経済は停滞が続いています。

そういう状況のなか、地域金融機関として取引先中小企業の経営力の向上支援は、不可欠であり、個々の企業の経営レベルを向上させることで、ひいては地域の活性化につなげたいとの思いから「南予活性化若手経営塾」を開校するに至りました。

### III. 事業内容

南予地域における産業の活性化をはかるため、創業者・2 代目・3 代目の若手経営者（後継者・会社幹部等も含む）の育成をはかり、企業経営体質の健全化・成長のための支援、事業継承問題の



(開校式)

解決などを中心とした1年間にわたる経営セミナーや個別指導を通じて、具体的な成果を出していくこと。さらに、当活動の継続展開を通じて南予地域の中小企業の経営レベルの向上を図り、産業を活性化させることを目的としています。



(講師陣)

講師は、提携する未来事業㈱(本社 東京都)の経営コンサルタントが担当しており、毎回2名から3名の講師が指導をしています。講義は毎月1回(年12回)開催しており、そのうち8回はセミナー形式の実践経営塾を、3回は個別指導・経営相談を行います。最終回には一人ひとりが1年間の成果として経営改善計画等の発表を行い、発表会の後に開催される修了式では修了証書の授与が行われ卒業となります。

当初から一般的な講演方式はとらず、個別指導を通じた実践を重視している

ため、塾生も15名~16名を限度としています。受講費用は1人(社)年間6万円で、受講者負担は3万円、当金庫負担3万円とし、その他講義に要する諸経費(弁当代等)や開校式・修了式の開催費用等も当金庫が負担しています。



(発表会)

## IV. 事業の特色

経営に関する基礎的知識の習得はもとより、経営者としての理念・心得から自社の経営改革計画書、資金繰り計画までを実際に策定します。特に実践的経営力の向上をはかることを主眼とした指導を行っています。

講義は厳格に行われ、事前課題(宿題)も多く出されます。質問事項等は、講師とのメールのやり取りで行っています。また、塾生とのリレーションシップ強化と職員のレベルアップを目的に各支店からオブザーバーを1名ずつ参加させ、自店の取引先の塾生とペアを組み一緒に講義を受けています。そこには、職員が塾生のフォローアップをすることで顧客提案力や目利き力の向上をはかる狙いもあります。

### 南予活性化若手経営塾参加人数

年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
参加人数	16名	17名	16名	13名	16名

## V. 受講生の声や具体的成果

同塾の開催を通じて、塾生と金庫とのリレーションシップ強化につながっています。塾生の中には、自社の財務諸表を初めて目にするという方もいて「数字を分析することの重要性が理解できた」という意見も多くありました。また、卒業後も未来事業(株)に定期的に経営相談をしている塾生も多くいます。

宇和島商工会議所も後援されていて、第1期、第2期には塾生として商工会議



(授業風景)

所職員（各1名）が参加され、第3期には宇和島市職員1名（商工観光課）が参加、第4期には信金中金四国支店の職員1名が参加しています。

修了式には、宇和島市長、商工会議所会頭にもご出席いただき、市長からは、挨拶の中で「この若手経営塾が当地域の活性化につながることを期待しています」という激励をいただきました。

## VI. 今後の展望

地域を元気にしていくということは信用金庫としての使命であるとの認識の下、この経営塾を継続することによって南予地域の中小企業の経営レベル向上に貢献していきたいと思っております。さらには、地域経済の活性化に寄与するため、金融の面からも支えていきたいと考えています。

また、平成24年度は、創立90周年を迎えることから、その記念行事の一つとして、第1期から第5期までの全塾生を集めてOB会（懇親会）を開催する予定です。

## 宇和島信用金庫若手経営者塾 参加に関する感想文



特別受講生 信金中央金庫  
四国支店・愛媛県分室  
平 祥志さん

まずは一年間、特別受講生として当経営塾に参加させて頂き、厚くお礼申し上げます。このような経営塾に参加させて頂いたのは初めてのことであり、1年間という短い期間ではありましたが

信用金庫のお取引先の方々と触れ合うことを通じて、事業を取巻く環境や現状などをお聞きする機会にも恵まれ、非常に有意義なものでありました。また、経営を担う立場におられる若い受講生の明るく前向きに取り組む姿勢に勇気づけられることもありました。

当経営塾の特徴の一つとして、「講師陣の数が充実していること」、「信用金庫渉外担当者が受講生とペアになって参加していること」が挙げられる。受講生10～15名程度である一方、講師陣は第一線で活躍する経営コンサルタントが常時2名、多いときで3名が指導にあたる。また、受講生とペアで参加している宇和島信用金庫の渉外担当者によるフォローも指導を充実させるために欠かせないものとなっている。

経営塾の雰囲気はアットホームであり、受講生はよい意味でリラックスしながら講義を受けることができたのではないかと感じました。これは、講師陣の気配りや気さくな声掛け、顔なじみの宇和島信用金庫の渉外担当者のフォローなどにより醸成され

ている。カリキュラムは決して易しいものではないが、このような雰囲気の中で受講できることは大切だと感じる。

カリキュラムの内容については、経営のイロハから始まり、財務分析や経営改革手法等まで一とおり網羅されている。例えば、経営改革については、「人件費の合理化施策」、「原価低減施策」、「売上確保（成長に取り組む）」、「チャレンジ社風の醸成」などを学ぶ。一方、これらを体系的に学ぶには時間が限られているため、やや消化不良になってしまった感は否めない。また、経営塾の修了課題として、自社の経営改善計画の策定と発表会が設けられている。

我々を取巻く環境は、「人口減少や地域経済の

伸び悩み、競争の激化、グローバル化」といった、先代経営者とは異なる時代を迎えている。このような下で、「我々はどのようにして生き残っていくのか」ということを懸命に考えていかねばならない。そのためには、経営のイロハはもちろんのこと、生き残るために必要な知識や物事の見方・考え方を身につけることや、新たな発見と気づきを与える場としての受講生同士のディスカッションの機会を設けることなどが、今後のカリキュラムに期待される。また、現役の経営者を招き、「苦労や失敗談」、「そこから学んだこと」、「これからの経営者に求められること」などを語ってもらうことも役に立つのではないかと。